部会長あいさつ

部会員皆様への感謝とお礼

群馬県高等学校教育研究会音楽部会
会　長　　小松　祐一
（群馬県立吉井高等学校長）

令和３年度計画していました高教研音楽部会の事業は，新型コロナウイルス感染症対策の様々な制限下の中で，可能な限り実施することができました。これも荻野副部会長を始めとする役員並びに全ての部会員皆様のおかげであり，心より感謝申し上げます。

昨年度から新型コロナウイルス感染症が一層猛威を振るい，音楽部会の行事は団体演奏会，個人演奏会が中止となってしまいました。参加を希望していた生徒にとっては，日々の鍛錬と精励の成果を披露する尊い機会であるとともに，演奏会場の場に立ってこそ得られるものがあったと思うと残念でありません。次年度，社会情勢が好転し実施できることを切望します。

定期総会，理事会，授業研究会，夏季研究会，講演会等は，部会員の皆様の細部にわたる懇到な準備と対応により，滞りなく実施することができました。これらの行事の運営にあたり，賞賛すべきは，年度当初の研修会等からオンラインでの実施を想定し，部会員が活用できるよう知識，技能の習得に努めていたことです。現在でこそ，オンライン中継による会議等が急激に普及し，一般的になりましたが，研修会の甲斐があって，年度当初からオンラインによる遠隔会議，授業参観，アプリケーションを利用した共有作業，アンケート集計，コミュニケーションツールを利用した情報発信等，先験的な取組を導入していました。授業研究会においても出席者とオンライン参加者とによるハイブリット型の研究会が実施されました。まさに，部会員の皆様自らが主体的で対話的な深い学びを率先し，体現していたことに感銘を受けました。

定期総会，理事会で「しゃくなげ」の改訂について協議されました。先人達が創作し，現在まで引き継がれ，多くの先生方が指導に活用している尊い教本だと思います。今年度，「しゃくなげ編集委員会」を立ち上げ，委員を理事のみならず一般会員からも集い，約１０年ぶりの改訂に取り組みます。

講演会では，国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官の河合紳和先生をお招きし，ご講演をいただきました。このようなご高名な講師は，全国，関東の研究協議会等でお招きいただくことはあっても部会でご講演いただけたことに驚嘆いたしました。多くの部会員の皆様が参加し，音楽教育に対する矜持と篤実な取組を痛感いたしました。この講演を通して，来年度，新学習指導要領を実施する上での指針をご教示いただいたことと思います。

ところで，エッセイストの三宮麻由子さんの『鳥が教えてくれた空』という本の中で，素敵な言葉に出会いました。「箸休め」という言葉です。彼女は４歳で全盲となり，光を失ってから２００種以上の鳥の声を聞き分け，気持ちを想像し思いやることができるようになったそうです。また，ピアノを演奏できるようになり，絶対音感がついたそうです。鳥は他の動物のように強い力があるわけではありませんが，いないと味気ないものであり，鳥は神様の「箸休め」のような存在ではないかと語っています。私は，部会長としてお役に立てることはありませんが，メインディッシュの立派な料理と料理の間に挟まれた「箸休め」のような働きができればよしという思いで勤めてまいりました。つまり，専門家の皆様が精励し行事を行う際，時には俯瞰的な視点で助言し，行事が円滑に実施できるようお手伝いすることを心掛けていました。しかし，ご期待に応えられなかったことが多々あったことと思います。部会員皆様の多大なるご尽力とお力添えにより，高教研音楽部会の部会長という重い任を降ろすことができます。他教科の私にとっても学びの多い，代えがたい尊い経験となりました。２年間にわたり，誠に有り難うございました。

結びに，高教研音楽部会の一層の発展とお一人おひとりのご活躍をお祈り，併せて今年１年間にわたり賜りましたご厚情に深く感謝するとともに，お礼申し上げます。